

2022年3月期第3四半期 決算説明会・主な質疑応答

決算説明会での主な質疑応答を掲載しています。

開催日時：2022年2月3日（木）

<ご留意事項>

「主な質疑応答」は、説明会での質疑をそのまま書き起こしたのではなく、ご参加いただけなかった方々向けに、当社の判断で簡潔にまとめたものです。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

映像事業

Q：新製品の販売状況について

A：12月に発売したZ9はお客様から高い評価を頂いており、売れ行き・オーダーは順調ですが、部品不足から十分な供給ができていません。Z9のバックオーダーは数万台あり、解消するまでに数か月かかる予定です。月産台数の増強は部品調達の制約もあり難しい状況ですが、早期解消に向け最大限努力してまいります。

Q：半導体や部品不足の状況は改善しているか

A：改善に向かう部品がある一方で、別の部品で不足が顕在化するなど、引き続き状況は流動的です。問題の長期化が避けられない部品もあり、部品不足は、来期も一定程度、生産の制約となる見込みです。

精機事業

Q：パネルメーカーは今後の設備投資を延期・縮小しているようだが、FPD露光装置の今後の見通しは？

A：2022年（暦年）では、市場規模は90台を上回る程度と見込んでいます。パネル価格の下落もあり不透明感は拭えませんが、来期の商談はほぼ見えています。今期は前期コロナ感染拡大の影響により据付完了できなかった10.5世代向け露光装置を中心に販売が進みましたが、来期の販売は今期より減る見込みです。

Q：主要顧客の投資拡大による半導体露光装置（ArF液浸露光装置）に関する将来の需要見通しは？

A：半導体装置事業は主要顧客を中心に来期の受注は確保できており、売上収益・営業利益は今期より増える見通しです。来期の販売台数は、20年3月期の台数に近い水準まで増えることを期待しています。

Q：半導体露光装置について、主要顧客向け以外への拡販状況や先日報道された3次元化対応装置の販売見通しについて話せる範囲で教えてください。

A：少量ながらも主要顧客以外へのArF液浸/ArF露光装置の商談が決まっており、引き続き拡販に向けて努力してまいります。また、昨年10月に開発を公表したArF液浸スキャナー「NSR-S636E」（プレスリリースご参照 https://www.nikon.co.jp/news/2021/1018_nsr-s636e_01.htm）を含め、今後も最先端の半導体デバイス製造に欠かせない露光装置を提供することによってお客様のニーズに応え、付加価値の高い半導体製造に貢献してまいります。

コンポーネント事業

Q：コンポーネント事業の上方修正では、EUV関連コンポーネントの需要前倒しがあったためか？来期見直しへの影響は？

A：今回の上方修正は、EUV関連コンポーネントのほか、半導体関連製品向け光学部品や産業機器向けエンコーダ等で販売が好調に推移しているためです。EUV関連コンポーネントは、生産の立ち上がりが順調に進むことから売上の上振れを見込んでいます。半導体関連製品向け光学部品は、半導体市場が活況であり今後も伸びていくことを期待しています。

全体

Q：営業利益水準の来期見直しについて

A：来期の予算については、3月下旬の機関決定に向け現在策定中であり、現時点でのイメージとしてお伝えします。映像事業は、Zシリーズの好調によりプロ・趣味層向けシェア拡大が期待される一方、部品不足の継続並びに円安効果や品薄による販促費抑制効果の剥落などから、来期は今期の営業利益見通しに届かない可能性があります。精機事業では、半導体装置事業は主要顧客向けを中心に今期を上回る見込みですが、FPD装置事業は今期を下回る見込みであり、今期計上予定の一過性のサービス収益の剥落等を考えると、来期は今期見通しに届かない可能性があります。一方、コンポーネント事業は、EUV関連コンポーネントを中心に、来期も業績拡大傾向は続くと考えています。その他の事業や全社費用を踏まえた来期の業績予想については後日、正式に決定・開示する予定です。

以上